

平成28年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
1	空き家利活用等相談事業	特定非営利活動法人空き家安全管理ネットワーク	住宅政策課 空家活用推進室	<p>【会長】 講演会が計画どおりの回数を実施できなかったこと、当初予算の70%を越える24万円近い返還金が生じたことは、団体および担当課のそれぞれの事情があるにせよ、とても残念でした。 一方、市役所から空き家所有者へ講演会を案内し、空き家所有者の相談事案に結びついたことは、協働事業ならではの成果だと評価します。併せて、相談事案から空き家所有者の具体的な活用希望と、空き家を利用したい人の需要が把握できたことも本事業の実績だと評価します。 担当課におきましては、特別措置法および本市条例に基づき、空き家問題の啓発と利活用促進をNPOとの連携も視野に入れた体制で継続的に取り組んでいくことを期待します。</p> <p>【委員】 日本全国各地の自治体が課題としているテーマである。このような状況の中、NPOがこうした課題に取り組んでもらえることは心強い。行政担当者が異動などで変わる中、NPOはこの分野で専門的・継続的に携わってってもらえる。また、行政が言いにくいことも「民」の立場で話してもらえる。今後も協働事業として続けてほしい。</p> <p>【委員】 高齢者の多い地域にとって、大切なテーマ・問題であり、ニーズに合っている点は優れています。この問題解決のための、PR活動と継続の方向性をきちんと協働してほしい。(相談の事例分析が大切)</p> <p>【委員】 各地域で問題になっている空き家。取り組み自体に期待する。今後のご活動が、他市にみられる「空き家対策～条例」につながるような視点で、担当部署と協議を重ねてほしい。</p> <p>【委員】 今日的な課題・テーマに先進的に取組まれたことは多いに意義があります。地域社会では空き家所有者に対する働きかけはますます必要なことであり、今後の活動に期待します。当初計画した事業内容のセミナー開催が2回になった理由を報告書にも説明するべきでしょう。</p> <p>【委員】 現在日本では人口の減少と高齢者の増加に伴って、空き家問題が大きくクローズアップされています。今のところ有効な解決方法が無く、各自治体で手探りをしながら対応しているのが実態の様です。この事業は松戸市住宅政策課と協働して空き家問題・対策についての講演会を実施し、出来れば個々の相談に応じていくというスタンスで進められています。2回の講演会で合計112名の参加者という実績は多くの方が興味を持っていることを示しています。また、10数件の所有者との、今後の関係も築くことが出来たという結果は大いに評価されても良いのではないのでしょうか。ただし、次年度は松戸市との協働は申請していないとの報告ですが、この様な事業こそ松戸市と組むことにより住民の信頼も得られるのではと思うのですが如何でしょうか。</p> <p>【委員】 実施回数は少ないですが、なかなかよい活動内容だと思います。今後も継続されることを期待します。不動産ということもあると思いますが相談件数24件は成果だと思います。</p> <p>【委員】 深刻かつ複雑な空き家問題に積極的に取り組まれたことに敬意を表します。空き家の利活用推進のため、空き家所有者と直接話ができる関係が築けたことは大きな成果だと思います。平成29年度以降も、空き家所有者以外からの提案やニーズを収集し、両者のマッチングを図るなど、空き家問題解決に向けた活動を期待します。</p> <p>【委員】 空き家を取り巻く状況は、住宅の需給バランスや家族構成の変化などにより首都圏のベッドタウンを中心に大きな問題となっている。 現状の家屋をそのまま活用するには、権利関係や将来利用などの問題で進まない状況であり、合理的な利用の方策や手段の案内などに活動がとどまり、実施への手助は難しいようである。 個別相談や不動産業者の紹介なども行っているが、積極的な事業展開については、このままでは限界を感じる。</p>

平成28年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
2	地域連携自主防災事業	栗ヶ沢中学校 地域防災委員会	危機管理課	<p>【会長】 本事業は協働事業の好事例です。団体の強み、担当課の強みを組み合わせ、事業が成長していく様子が判ります。</p> <p>【委員】 東日本大震災以降「危機管理」は防犯よりも防災に関心が持たれるようになった。その中で、中学校のPTAを中心として、子どもや地域を守る当該団体の活躍は目を見張るものがある。これからも行政との協働を推進し、さらに各種団体との連携・協働を積極的にお願いしたい。松戸市になくてはならない団体の1つであり、他の団体の模範ともなる団体である。</p> <p>【委員】 防災に関する、優れた事業であると思います。特に避難所開設訓練(4回目)と成果報告書(1500部)の印刷配布が、実のあるアクティブな活動であると思います。ネットワーク作りと、各団体との交流連携が素晴らしい。</p> <p>【委員】 栗ヶ沢中学校地域防災委員会の提案により、市内の自主防災組織と交流する機会ができたことは大きな成果である。各地で同様の活動が進むことにつながり、市内全体の取り組みが充実する。また、要配慮者への対応等も頼もしい。</p> <p>【委員】 市内の自主防災組織との交流会を開催できたことは、この事業では大事なポイントであり、市内各地にこの仕組みが広がることを期待します。</p> <p>【委員】 松戸市内の数ある自主防災組織の中で、正に理想的な活動をしているのが、この栗防ではないかと思えます。年2回の講演会の実施、避難所開設運営の訓練、要配慮者に対する支援の検討、他の自主防災組織との交流、通信の発行と多彩な活動を実施しています。万が一の時の災害時には、この地域の人々にとって心強い存在になることは間違いありません。松戸市の危機管理課が他の防災組織を指導する上で、栗防が蓄積してきたノウハウが大いに参考になることと思えます。ただし栗防を運営している委員の皆様と同じ熱意がなければ、絵に描いた餅になる可能性もあります。今後大災害が起きる可能性がますます高くなってきていますので、更なるパワーアップを図っていただきたいと思えます。</p> <p>【委員】 継続した活動は素晴らしいです。今後は水平展開され、賛同者を多くつくられることを期待します。地域密着が重要ですから。栗防通信や交流会報告書を見てみたいものです。</p> <p>【委員】 多くはないスタッフで五つの事業に精力的に取り組んでいます。「避難所開設運営訓練」は、新たな視点を取り込むなど工夫が感じられます。また「自主防災組織との交流会」は、市および組織間の情報共有・レベルアップの観点からとても重要だと考えます。災害への備えに「これで十分」はありません。この事業を継続することが、協働のまちづくりと災害へのリスク管理に寄与することになると思えます。</p> <p>【委員】 震災などの不測の事態に備えた、自主的な取り組みは意義が大きい。限定された地区での取り組みだが、同様のものが、全市的に広がることが望ましく、まさにモデルである。</p>

平成28年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
3	講演会を軸とした協働啓発事業	特定非営利活動法人まつどNPO協議会	市民自治課	<p>【会長】 講演会において協働の考えや効用を市民や市職員へ浸透させていくために、さまざまな工夫を施している点を評価します。一方で市職員を巻き込む場合、当該者が参加し易い日時を優先的に設定するのが筋だと思いますが、今回は会場確保を優先し、結果的に職員の参加数が伸び悩んだのは、たいへん残念なことです。市民活動インタビューのウェブ情報マガジンは実験的な取り組みで、情報提供の新たな道筋づくりだと思います。一方で年に5件程のインタビュー記事掲載の進捗だと、ウェブの特性である情報の拡散力を生かせていない点が気になります。ウェブ情報マガジンの価値を高める方策を打つ必要があると考えます。</p> <p>【委員】 「協働のまちづくり」の講演会は、市民に協働を啓発する意味で重要である。本来は、自治体で行うことも必須のように思われるが、NPOがそれを担っているのが協働事業のポイントである。いわゆる官製NPO(gongo)といわれる可能性もある。しかし、必要なことはさらに推進して頂きたい。「協働」の担い手であり、包括NPO(IM)ともいえる当該団体の御活躍に期待したい。</p> <p>【委員】 すばらしい事業ですが、広がりがなかなか進んでいない点が残念です。講演会への参加者を増やす努力をしてほしい。特定非営利活動法人まつどNPO協議会は44団体であり、63名で、市職員25名(研修)ともう少し広がり、ワークショップ等実動できるようにしてほしい。</p> <p>【委員】 市民・企業等への「協働事業等」そのものが浸透されていない状況下、この取り組みは重要。インタビュー冊子には、講演会時の出展団体9団体への対応は欲しかった。</p> <p>【委員】 協働のまちづくり講演会の参加者、対象者を広く呼び掛けることは必要な事ではあるが、講演内容と参加者の知りたいこと、ニーズがあっていたのか疑問です。「協働」を多様な切り口で理解をすすめることと、協働のまちづくりでは地縁組織、事業者等も対象になっており、今後の展開に期待します。</p> <p>【委員】 この事業は「協働の街づくり」に取り組むことを多くの方に認知させていくということで、協働の根幹をなす事業ではないかと思えます。元気なお年寄りの人口がこれから増えていく日本にとって、生きがいのある活動の実例として、様々な情報を提示していくことは重要なことです。今回十分な準備を経て11月に講演会を実施した様ですが、よく考えられた内容だっただけに、参加者の人数が気になりました。もう少し多くの市民、職員が参加しやすい場となる工夫(特に日程)が必要ではないかと思えます。</p> <p>【委員】 全体的なまとめとしての活動、今後も多くの団体が増えることを期待します。</p> <p>【委員】 協働したことで単独事業よりも意思決定等に時間がかかったとのことですが、相乗効果の方が大きかったのではないのでしょうか。講演会の内容・日程等に若干の改善点はあるようですが、町会・自治会等にポスター掲示を依頼したこと、また出展団体からの声掛け等により参加者の幅が広がったことは大きな成果だと思います。今後とも、講演会、インタビュー冊子、Webサイト等を通じた地道な啓発活動をお願いします。</p> <p>【委員】 協働によるまちづくりを進める中で、環境の変化への対応や新たな参加者・団体を募るなどの活性化を進める必要性において、有意義な内容である。市民一般の方々には協働に対する関心も低く、参加する手立ても見当たらないというのが現状であると考えられる。いろいろな活動を起こしやすくしたり、既存の活動に気軽に参加できる環境を整備し、それらの情報を発信する必要性を感じる。</p>